

MUSABI *information*

Musashino Art University Information

February 2026

特集1 インタビュー 学長 樺山祐和
100年目の盆踊り 立場や世代を超えてつながる広場

特集2 ムサビのキャリア・就職支援
低学年から支援を徹底し多様な進路を実現する

4 学科紹介 [空間演出デザイン学科]

6 授業紹介

7 卒業生紹介

10 NEWS

[在学生保護者向け教育懇談会・インフォメーション]

11 本学関連施設展覧会情報

12 2026年度学事予定/お問い合わせ先



特集1

インタビュー 学長 樺山祐和

100年目の盆踊り 立場や世代を超えてつながる広場

創立100周年に向け、
さまざまな取り組みが動き始めました。
そのひとつである「MAU2029」は
なぜ、なんのためにつくられたのでしょうか。
そして思い描く祝祭の風景とは？
学生時代をムサビで過ごし、
その後50年近くにわたってムサビに
関わり続けてきた学長・樺山祐和が語ります。



美術の専門家だけでなく誰もが楽しめるメディアへ

2029年を迎えるための準備を進めるなかで大切にしているのは、これまでムサビをつくってきた人たちへ思いを馳せることです。本学の教育理念である「教養を有する美術家養成」「真に人間的自由に達するような美術教育」という言葉を残した設立者の金原省吾先生や名取堯先生をはじめ、先生方や職員がどういった思いのもとにムサビをつくってきたのかを振り返るということですね。

ムサビにはいくつかのターニングポイントがあり、1929年創立の帝国美術学校から造型美術学園、武蔵野美術学校へと名称を変え、武蔵野美術学園に引き継がれたこともそのひとつです。そして1957年には武蔵野美術短期大学が設置、同時に通信教育部が開設され、5年後の1962年に武蔵野美術大学が誕生します。また、最近で言えば2019年には1学部制から2学部制になりました。それらのすべてで原動力となったのは、たくさんの方の思いにほかなりません。

そのうえで、“いま自分たちがどこに立っているか”を確認することも非常に重要です。これには美術という領域のなかでの位置や、日本のなかでの位置など、いろいろな視点があると思います。

そういう作業をやってはじめて、ムサビの100年の潮流を、次の100年をつくるに人たちに伝えることができる。「MAU2029」は、まさにその一助となるものです。

「MAU2029」はウェブマガジンであり、100周年事業の一端でつくる“ムサビを軸として描く日本の美術・デザインの一般向け書籍”のもとになるものです。データではなく、触れることができる書籍という形にすることで、ふとしたときに手に

取り、何度も読み返してもらえはるはず。だからこそ、誰が見ても楽しめるものにしたいですね。美術の専門家だけ、あるいは現在本学に関わっている人たちだけではなく、ムサビに関係しない人も含めたみんながおもしろいと感じるものをめざしています。

100周年を迎えるにあたっては、ほんとうにさまざまな思いが去来します。僕はいま66歳なのですが、20歳のときムサビに入学してからこれまでの46年のなかで、ムサビと離れていたのはたった2カ月間なんです。油絵学科を卒業したあと大学院に進み、助手を経て通信教育部や油絵学科の非常勤講師を務め、そして専任教員に。そうやってずっとムサビと共に生きてきました。

場所に対する思い入れはもちろん、ここで出会った、いまは亡き先生方との思い出もたくさんあります。100周年は、そういった時間を追憶する貴重な機会でもあるのです。

「自由を学ぶ」ムサビの教育

ムサビでは、美術やデザイン、あるいは建築などを学ぶことができます。領域は多岐にわたりますが、その底流に流れているのは「自由を学ぶ」ということ。つまり既存の枠におさまることなく、人間が生きることに根差した新しい美術をつくっていくことです。自由といっても、放任はしない。むしろ抵抗をつくり、ある意味で厳格な“基礎”をきちんと培うことによって、自由が生まれるという考え方なんです。

ムサビの教育理念にも「真に人間的自由に達するような美術教育」という言葉があり、すべての学科でその理念をつらぬいています。たとえば僕がいた油絵学科では、学生の表現は習作



創立100周年に向けた
さまざまなインタビューや対談、
埋もれた大学史料の発掘、
アーカイブ資料の公開
といったコンテンツを
掲載するウェブマガジン。

とされ、作品として認めないんですよ。僕も学生時代、絵画を犠牲にしても修練しろ、自分の存在を突き詰めなさいと言われてきました。絵画を描いているのに「絵画を犠牲にしても」と。やはりいま振り返っても、ものと向き合う、対話する、「見る」ということを徹底的に強いた基礎教育だったと思います。

一方で、大学という大きな枠組みのなかで言えば、ムサビの教育の柱のひとつには「連帯と共創」があると考えます。たとえば、国際交流。近年では外国からの留学生が増えてきました。日本だけではなく、いろんな国の学生を受け入れることによって、美術でつながり、連帯し、共創していくということです。もう少し枠を広げれば、宗教や人種、民族、文化、言語などが違って共存していける世界をつくらうよということだと思えます。

それからムサビは、先生と学生の距離感がすごく近いと思いますね。先生方はおせっかいなほどいろんなことを学生に教えます。学生が100人いるとしたら、そのうちの5人をきわめて優秀なスターに育て上げるのではなく、100人全員にムサビの教育のありようを身につけてもらおうという大学なんです。

ムサビを卒業する人は毎年約1000人いますが、みんなが美術系の仕事に就くわけではありません。どんな道に進もうとも、なにかを創造していくことを通じて学んだ“自由”を胸に生きていける。そんな人材をつくっていくことをめざしています。

地球規模で盛り上がる、100年目の盆踊り

僕が「MAU2029」に期待するのは、ムサビに対するさまざまな想いが聞ける場になることです。在学生、卒業生、専任教員、非常勤講師、職員と、いろんな立場の人がいるし、いろんな世代の人がいる。ひょっとしたら、ムサビの前身である1929年創立の「帝国美術学校」の関係者のなかにも、まだご存命の方がいるかもしれません。

そういえば、僕の恩師である内田武夫先生も帝国美術学校の卒業生でした。そのころの先生方というのは、なんというか、“構え”が深いんだよね。たとえば絵のことを話す前に演劇のことを話したりと、「つくる」ことを別のベクトルで示唆したりするんです。もちろん絵描きだから絵のことをストレートに言うこともできる。でも、そうじゃなくて、「つくる」ことをもっともっと広い視点で僕らに教えてくれていたような気がします。

コロナ禍では、積極的に声をかけて指導することができない時期がありました。でも、そんな環境でもみんないい絵を描くんです。「教える」というのは一体どういうことなんだろうと

考えさせられましたね。日本の美術史に残るような作品をつくった先生方が無言でうしろに立ち、じっと作品を見るだけでおぼす教育の力みたいなものを見た気がしました。きっと「教える」って、単に言葉で伝えるだけじゃないんですね。

「MAU2029」は、そういうことも垣間見えるようなメディアにしたい。そのためにも、ぜひ多様な立場や世代の方々に登場してもらいたいと考えています。

「MAU2029」をつくること、読むことは、ムサビの美術やデザインを振り返ること。それは、日本の美術史やデザイン史を振り返ることでもあります。そういう意味では、社会とムサビがどんなふうに関わってきたのかを確認する場でもあるのではないのでしょうか。そしてさまざまな人が、「美術ってなんだろう」「デザインってなんだろう」と、再び考えはじめるきっかけのひとつにもなると思います。

そういうちょっと堅い側面もある一方で、僕が最も期待しているのは、すべてのムサビの関係者が「自分自身の青春を振り返る場」になることですね。僕自身もそうですが、ムサビで過ごした時間というのは、青春そのものだと思うのです。

同時に、いま生きている人たちだけではなく、ムサビを支えてきたすべての人たちの存在も感じられるようにしたいです。それこそ1929年、ムサビの前身である帝国美術学校ができた頃に関わった人たちも一堂に会するような。まさに“100年目の同窓会”、もっと言えば“100年目の盆踊り”みたいなイメージです。盆踊りというのは生きている人たちだけでなく、亡くなった人たちも一緒に踊るものではないでしょうか。設立者の金原先生も名取先生も来て、みんなで盆踊りを踊るんです。

「MAU2029」のスタートに続き、これから記念事業の具体的な内容を考えていきます。当然ながらそれらの企画では、教員や職員だけではなく、いまいる学生たちもどんどん巻き込んでいきたいと思っています。みんなが参加できる取り組みを通して、私たちが絆で結ばれていることが、遠く離れた場所にいる卒業生も感じられるようにできないかなと、いろいろ考えています。

それから、日本全国の支部で活動している校友たちも一緒に盛り上がっていききたいですね。さらに支部は上海など海外にもあるので、東京のキャンパスを中心に世界各地がつながって、2029年を迎えられたらすごくいいと思います。

記念すべき時を、地球規模で盛大に祝いたい。だって、100周年だからね。

ウェブマガジン「MAU2029」2024年10月30日より転載
<https://2029mag.musabi.ac.jp/magazine/post-01/>

2029

武蔵野美術大学

100周年ウェブマガジン



学科紹介

本誌では、毎号一つの学科を取り上げ、その学科内で行われている授業やアトリエ・工房等の施設、所属教員をご紹介します。

空間演出デザイン学科

セノグラフィ、インテリアデザイン、環境メディアデザイン、ファッションデザインの4コースを設置し、「人を幸せにしたい」という共通の想いを抱えています。自然の姿からの学びや、美術・デザインの歴史や技法、新しいメディアや技術への理解も大切にし、個々の感性が集結することで、初めて空間は成立します。独自の表現力と創造性を養い、空間をより豊かに美しくかたちづくるデザイナーを育てます。

施設紹介

空間演出デザイン学科は、「真に人間の自由に達するために美術・デザインを追求する」という本学の教育理念に則り、そのうえで、「造空思考で思索し、造空を学修することで、人間的自由に達する」ことを教育目的としています。「造空思考」を具現化するためには多種多様な領域の設備を取り扱う必要性があり、様々な実習授業や、演習授業を経て、学生たちは各工房の可能性を経験していきます。

具体的には、木材加工が可能な「木工室」、金属加工が可能な「金工室」、パターン作成や縫製が可能な「ファッション工房」、シルクスクリーンや染色などが可能な「テキスタイル工房」、舞台公演やショー、光の実習が可能な「スタジオ」、人物撮影や物撮りが可能な「写真スタジオ」があります。

空間、身体をメディアとした表現は本当に多岐に渡ります。様々な領域の工房を使いこなし、各自の領域を形成・拡張し、卒業制作へと向かっていきます。

今回はその中から「ファッション工房」「スタジオ」「金工室」をご紹介します。

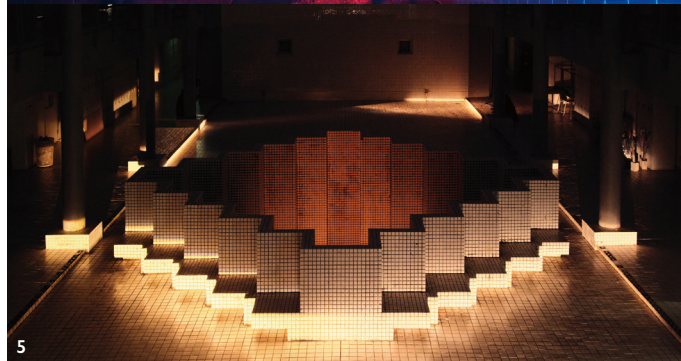
- 1 ファッション工房 | パターン作成や縫製作業ができる工房です。工業用・職業用のミシン、アイロンやトルソー、など服飾制作に必要な備品を完備しています。写真/1年次「製図I」授業風景。
- 2 スタジオ | 舞台照明機材や音響機材を揃えた多目的スタジオです。本格的な照明調光設備が備わっており、天井の高い開けた空間を利用して舞台公演やファッションショーなどを行っています。写真/2025年度池田ゼミ演劇公演「変身/変針」の公演風景。
- 3 金工室 | 高速カッター、3本ロール、メタルソー、コンターマシン、ベルトサンダー、プラズマカッター、各種溶接機、その他ハンドツールなどが使用可能です。写真/TIG溶接機を使用した制作の様子。

授業紹介

2年次第5期課題/実材実習I(照明実習)をご紹介します。「空間」とは容易に言い表すことのできない概念的広がりを実践的な可能性に満ちた、いわば虚実の狭間に存在する領域です。フォルムの背後にある光・音・時間といった、ときに観念的な理解に陥りがちな要素を造形の一部として取り入れ、それらを視覚と身体を通した「経験」としてもたらすことを目的としています。

本実習ではグループによる共同制作を行い、視覚認識の重要な要素である光(人工照明)とモノ(存在する環境)の関係を時間軸の中に表現し、テーマに沿った照明効果を駆使し、空間演出作品の上演形式で発表します。照明機材の効果や使用方法の実習を経て、制作側が意図したイメージが発信出来るか、また、いかにして日常の環境を変容させられるかなど、時間軸をプランニングする演出体験を通して、実践的な空間演出方法を学修します。

- 4 照明実習 | 2024年度上演風景
- 5 同上



空間演出デザイン学科 専任教員

北川陽史 准教授

教員の研究内容

現在、私は彫刻家、デザイナー、造形家として活動しています。ジャンルや目的はいずれも異なりますが、それらの制作の基底には常に、彫刻や造形作品に対する思考があります。彫刻といっても、いわゆる木彫や金工といった、素材との対話から生まれる作品とは異なり、私の関心は主たる材料として用いる金属による造形を空間との関係性を通して問うことにあります。前者では表面の緊張、肌理、硬度、重量や体積が、後者では作品の形態が備える空間性とそれを内包するより大きな空間との相互作用が課題となります。また、金属にはステンレス、アルミニウム、鉄などさまざまな種類がありますが、それぞれの素材の特性やその使い方、あるいは表面処理や塗装などによっても、観者が作品から受ける経験の質は大きく異なったものとなります。現在の私の造形はいわゆる自己表現ではなく、観者の視覚と身体感覚を通して知覚される経験の総体を、表現の目的としているといえるかもしれません。

この考え方が、明確な機能をもつ空間に展開されるとき、空間演出デザインの領域と結びつきます。時にそれは舞台美術として、商業空間として、展示空間として、あるいは家具としてなど、デザインや造形として社会に実装されていきます。

北川 陽史 KITAGAWA Yoji

2010年武蔵野美術大学大学院造形研究科修了(造形修士)。空間演出デザイン学科研究室助手、空間演出デザイン学科非常勤講師、文化服装学院非常勤講師を経て2023年着任。2016年より一般財団法人M&T KONDO美術財団理事。大学院在学中より彫刻家、空間デザイナー、造形家としての活動を開始。美術館での作品展示をはじめ、幅広くデザイン・施工業務に携わっている。

教員メッセージ

私は、学生諸君を一人ひとりが独立した表現者(デザイナー、アーティスト)として認識しています。

卒業制作以外のさまざまな課題は教員が設定しますが、常に単一的な視点にとどまらず、事物を多角的に捉えることを心がけています。というのも、学生一人ひとりには固有の「世界への触れ方」があり、美術教育においては、それをいかに社会と接続していくかが重要だからです。

歴史への理解を通して、先行研究をより深く掘り下げる姿勢を養い、現代における自らの立ち位置を明確にすること。そして、頭の中に描いたイメージを、どのように現実世界へとアウトプットしていくか—それは一見シンプルに見えながら、実際には極めて困難な営みです。

本学科の実習授業では、基本的に一つの課題に約4週間取り組みます。この一定のペースに、学生たちはいつの間にか良くも悪くも順応してしまいます。そこで、私が担当するゼミでは、長期的に構想を深める課題と、瞬間的に思考と表現を繰り返す課題を並行して行うようにしています。毎週異なる課題に取り組むことは、教員にとっても新鮮な緊張感をもたらします。

興味深いことに、1時間で考えたものと1ヶ月かけて考えたものとの、必ずしも大きな差が生まれるわけではありません。現実世界に「完全なカタチ」は存在せず、誰しもその差異や揺らぎに悩まされます。しかし、そうした「不完全さ」を受け入れることもまた、表現の重要な一部なのだと感じています。



6 in / sight [内空間] | 鉄、フッ素塗装 W150×D10×H15 (cm)

7 容器 | 鏡 鉄、樹脂、モルタル、ウレタン塗装
W108×D90×H81/W24×D24×H24 (cm)

8 「ART-BOOK 絵画性と複製性」展覧会 |
会場構成デザイン、什器デザイン、施工

授業紹介

武蔵野美術大学には、自身が所属する学科別の専門科目のほかにも、様々な授業科目があります。その授業内容の一部をご紹介します。

文化総合科目（全学共通科目）

[文化総合科目] 全学科対象の、広く一般の諸学問を学ぶ授業科目です。
美術・デザインの各領域はもちろんのこと、人文・社会・自然の各分野から、
外国語・保健体育まで、約750科目開講しています。

文化総合科目

音楽学演習II コンサートを作る

教養文化・学芸員課程研究室

白石美雪 教授

音楽は多くの美大生にとって心の拠り所です。聴くだけでなく、五美大管弦楽団に参加する、あるいはロックやジャズを演奏する人も多い。だからこそ、授業では幅広い知識を身に付け、具体的な実践を通じて「より広く」「より深く」音楽を理解することを目指しています。多様な価値観に触れることが鋭敏な感受性を育むからです。「音楽学演習II（コンサートを作る）」はプロの優れた演奏家を招き、実際のコンサート作りを体験します。企画からポスター、舞台美術、照明、音響までを受講生が担って、美大生のもつスキルを高めながら準備を進めます。最後に自分たちの手で準備したコンサートで、プロの演奏家の至芸に触れた時の達成感は何にも代えがたいものとなります。

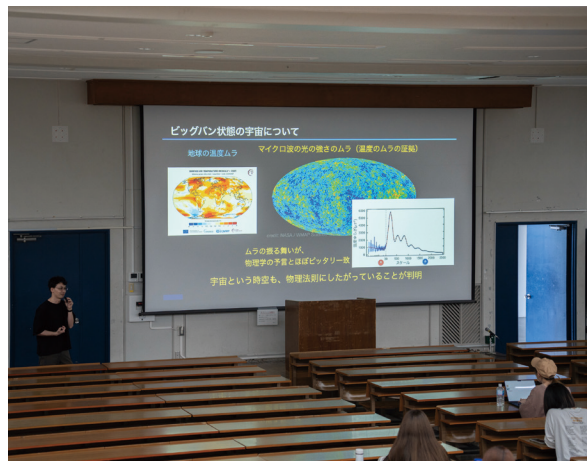
文化総合科目

宇宙の科学| 宇宙観の発展と人類の宇宙進出

教養文化・学芸員課程研究室

高棹真介 准教授

人類は古代より夜空に魅了され、さまざまな宇宙観を築いてきました。しかし、それらの宇宙観は何度も覆されてきました。その背景には、自然に対する人間の思い込みや理解不足があります。宇宙観の発展史とは、自然との対話を通じて世界を理解しようとする営みの歴史であり、ポール・ゴーギャンが残した「我々はどこから来たのか？ 我々は何者なのか？ 我々はどこへ行くのか？」という根源的な問いへの探求でもあります。本講義では、こうしたテーマをムサビ生に向けて科学の視点から紹介します。講義では専門用語をなるべく避けつつも、最新の研究成果や宇宙画像、芸術作品なども交えながら、科学と表現の接点を探っていきます。



上：宇宙の大規模構造に関する解説風景

下：ビッグバン状態の宇宙に関する解説風景

左上：記録映像の撮影リハーサル

左下：音響担当がマイクを準備中

column ムサビ生の卒業後の活動をご紹介します。



その他のキャリアに関する記事はこちらよりご覧ください。
URL: <https://careermag.musabi.ac.jp/>



このサイトは武蔵野美術大学キャリアセンターが運営する進路選択・就活を支援するウェブマガジンです。ムサビ生の進路は、企業就職はもちろん、進学、作家活動、フリーランス、起業など多岐にわたります。そんな多様な進路の選択のヒントにつながるコンテンツを発信していきます。

常に読者の視点を意識して、クライアントの価値をしっかりと届ける

株式会社小学館 広告局 第2企画営業室

酒井日花さん
2022年 映像学科卒

高校時代に映画を制作し、賞をもらったことがきっかけで美大をめざすようになりました。ただ大学では、コロナ禍をきっかけに、実写映画から自宅でひとりで制作できるアニメーションにシフト。これがすごく自分に合っていたようで、在学中に外部からの制作依頼を受けたり、卒業制作ではアニメーション作品で優秀賞をいただいたりしました。また、関野吉晴先生（文化人類学／探検家）のゼミでいちからカレーをつくったり、猪狩りに行ったりしたことや、部長を務めていたシルクスクリーンのサークルで芸術祭に出店し、自作のイラストTシャツを販売したのも印象深い思い出です。

卒業後は人を幸せにするクリエイティブな仕事に携わりたいと考え、幼いころから好きだった図鑑シリーズを発行している

小学館に入社しました。現在は広告局で、女性向け雑誌の広告営業を担当しています。いつも意識しているのは、読者の視点を大切にして、クライアントの価値をしっかりと届けること。クライアントの悩みに対して力になれると思えるのは、ムサビでなにするにも突き詰めて考えることを習慣づけることができたからです。

仕事のかたわら、プライベートではアニメーションを自主制作しています。学生時代よりはスローペースになりましたが、作品づくりもずっと続けていきたいと考えています。

2025年1月取材



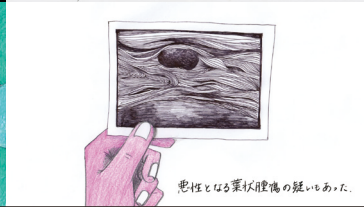
掲載インタビューのロングバージョンはこちらよりご覧ください。
<https://careermag.musabi.ac.jp/kigyos-shusyoku/1531/>



酒井さんが広告営業を担当している女性向け雑誌。左から『CanCam』2024年7月号、『Oggi』2024年8月号、『美的』2024年9月号。



卒業制作の手描きアニメーション《痛empathy》。「胸にしこりができた。コロナと皮膚の下で動き、姿がつかめない。形や大きさ、色も皮膚で遮られてしまい想像するしかない。しこりは私の体の中で確実に成長し、大きくなっていく。私の養分を横取りされているような、害であるしこりに対して、私は思考する」



動画はこちらよりご覧ください。





特集2 ムサビのキャリア・就職支援

低学年から支援を徹底し 多様な進路を実現する

企業就職から、作家やフリーランス活動、大学院への進学や海外留学まで、多岐にわたる進路を実現できるように、1・2年次の低学年から自分のキャリアを考え、主体的に行動する後押しとなるプログラムを用意しています。

1-2 年次

多彩な情報提供でキャリアへの意識を高める
低学年向けガイダンスや課外講座をはじめ、進路へのイメージを高める多彩な情報提供を通して、進路に向けた活動が本格化する3・4年次へスムーズにつながることを目指します。

社会人の基礎を学ぶ人気授業 キャリア設計基礎

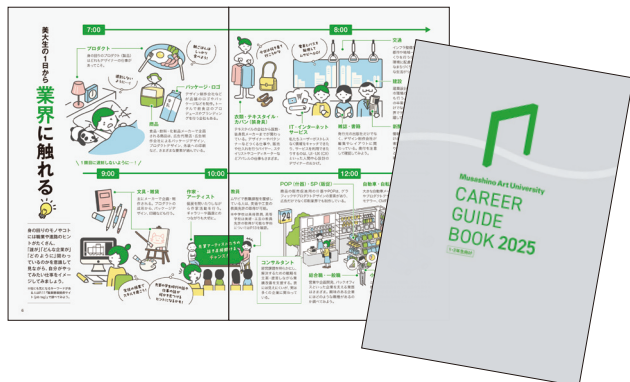
1・2年生が対象の授業科目です。座学だけでなくディスカッションやグループワークを通して、これからのキャリアを自主的に考え行動できる力を養います。卒業生を招いたトークもあり、履修希望者が殺到する人気授業です。

主な授業のテーマ

- ・自分と社会の接点を考えてみる ・自分を知る
- ・社会を知る ・キャリアデザイン
- ・卒業生のキャリア ・行動計画シートの作成

将来を考えるきっかけをつくる キャリアガイドブック

将来を考え始めるきっかけとして、1・2年生向けの「キャリアガイドブック」を新入生のオリエンテーションで配付。就活本番になってから慌てないために、低学年のうちからやっておきたいことを網羅しています。



その他の1・2年次向けプログラム

- ・進路・就職ガイダンス
- ・入学オリエンテーション
- 【もうすぐ2年生】未来事始め
- ・「課題発見」体験講座
- 【もうすぐ3年生】就活事始め
- ・日本事情II（留学生対象）
- 留学生向けガイダンス（多言語実施）
- ・自己分析ワークショップ ほか

自分の道を切り開くヒントがたくさん 作家・フリーランス・起業家入門

作家やフリーランス、起業した卒業生をゲスト講師に迎え、学生時代の過ごし方からキャリアや人脈の広げ方、お金や保険のことまで、個人で活動する上で役立つお話を聞くことができる講座です。全学生が受講できます。



2024年度の講座テーマ・ゲスト

「グラフィックデザイナーが独立して成功するには、どのような経験を積みばいいか?」

加藤賢策（グラフィックデザイナー）

「理想のアーティストのかたちとは?」

神楽岡久美（アーティスト）

「描いたビジョンを実現させる会社を経営するには?」

稲葉裕美（デザイン教育家）

「不安を乗り越え、好きなことを手放さない方法」

くらちなつき（イラストレーター）

「自分に向いている天職の見つけ方」

かっぴー（漫画家）

「裏方としても創造性を発揮できる、アートマネージャーの仕事」

三木茜（アートマネージャー）



入学した日から利用できる キャリアセンター

就職活動を中心に、学生の進路選択をサポートしています。業界の特徴を深く理解している職員や、資格を持つキャリアカウンセラーが進路全般の相談に応じます。

主な支援内容

- ・個別進路面談
- ・ポートフォリオの閲覧
- ・面接対策
- ・就職関連資料・書籍の閲覧
- ・応募書類添削

進路の選択やヒントにつながる
ウェブマガジンも運営



3-4 年次

就職活動やインターンシップが本格化する3年次からは、ポートフォリオの作成支援や面接対策、会社説明会など、進路を選択・決定するための豊富な機会を用意しています。

具体的な対策と両輪で企業との接点を創出する

業種別・職種別に細かく指導 ポートフォリオ作成支援プログラム

自分の考え方や強みをアピールする資料として美大生の就活に欠かせないポートフォリオの基礎知識から準備、作成までを実践的に学べる全学生対象の連続講座です。業種・職種別に求められるポイントや効果的なプレゼン方法も学べます。



人気企業の人事担当者や卒業生が来校 合同会社説明会・会社説明会

企業の人事担当者や卒業生による会社説明会を学内で実施しています。1社ごとの説明会は年間150社以上、合同の説明会は年間100社以上。多くの企業と接点を持つことができ、ポートフォリオのブラッシュアップや志望動機の明確化を図る絶好の機会となっています。

これまで説明会を実施した企業（一部）

[ゲーム・アニメ] スクウェア・エニックス/バンダイナムコスタジオ/コーエーテックモホールディングス/セガ/カプコン/Cygames/ポケモン/コロプラ/1-UPスタジオ/ゲームフリーク/CloverWorks/ユーフォテーブル [メーカー (機械・食品・化粧品・文具・雑貨等)] ソニーグループ/富士フイルム/東芝/NEC/シャープ/リコー/コニカミノルタ/三菱電機/島津製作所/富士通ゼネラル/花王/資生堂クリエイティブ/日産自動車/クボタ/デンソー/マツダ/コクヨ/パイロットコーポレーション/シマノ/河津/サンエックス/タカラトミー [広告・印刷・出版・IT・コンサルタント] 電通/博報堂/東急エージェンシー/ブラビス・インターナショナル/たきコーポレーション/大日本印刷/凸版印刷/レンゴー/共同通信社/サイバーエージェント/アクセンチュア/ZOZO/コンセント/Sun Asterisk [空間・ディスプレイ・建築・インテリア・放送・番組制作] 大成建設/積水ハウス/日本設計/東洋建設/オカムラ/ムラヤマ/パウハウス丸栄/ジーク/オリバー/TOTO/東リ/日本テレビアート/テレビ朝日クリエイト/Mテック/シミズオクト

先輩のリアルな就活体験を聞ける ジョブトーク 先輩による就活アドバイス会

就活を終えた4年生が就活体験を後輩に向けて語るプログラムです。学生が主体で運営しているためカジュアルな雰囲気に参加しやすく、実体験に基づいたトークは就活への不安を払拭してくれるはず。Instagramでも情報発信しています。



主なテーマ
 ・就活そもそも編
 ・ポートフォリオ編
 ・冬の過ごし方編



その他の3・4年次向けプログラム

*学年を問わず参加できるプログラムもあります

- ・進路・就活ガイダンス（導入編・本番編）
- ・業界・職種研究会
- ・業界別・学科別内定者報告会
- ・就活対策講座（面接、webテストなど）
- ・グループディスカッション対策
- ・インターンシップガイダンス
- ・留学生向けガイダンス

2026年度 在学生保護者向け 教育懇談会のお知らせ

日時：2026年7月11日〔土〕

会場：鷹の台キャンパス

参加方法：事前申込制（先着順）

* 上記予定は変更になる可能性があります。ご了承ください。

在学生の保護者の皆様を対象とした教育懇談会を開催いたします。詳細は今後大学webサイトで公開予定です。ご参加には事前予約等が必要となる可能性もございますので、ご来校前に必ずwebサイトをご確認ください。



インフォメーション

2025年度芸術祭「幻のサーカス団 ArsCIRCUS (アルス・キルクス)」を開催

2025年10月24日 - 26日に、本学鷹の台キャンパスにて芸術祭を開催しました。タイトルは、サーカスの芸やパフォーマンスで観覧者を楽しませるといふ点と、芸術祭という場で作品や多様な表現を観て楽しんでいただく点に共通性を見出したことをきっかけに構想されました。



本学と株式会社やまが 産学連携プロジェクト成果展示を開催

本学は、きもの専門店の株式会社やまととの産学連携プロジェクト「KIMONO Project - 循環する物語としてのきもの」の成果展示を、市ヶ谷キャンパス社会連携拠点「1/M (イチエム)」にて開催しました。本プロジェクトは、きものが受け継いできた「物質的な循環」と「物語の継承」の二つの価値に着目し、伝統を尊重しながら現代のライフスタイルへつなぐ“未来のきもの”の姿を探るものです。本学の学生20名が4グループに分かれ、清水恒平教授（基礎デザイン学科）が担当し、新しいデザイン提案、素材研究、空間・体験設計など、多角的なアプローチによるプロトタイプ制作を行いました。



ビジネスデザインアワード「MAU SOCIAL IMPACT AWARD 2025」の グランプリが決定

今年が2回目の開催となる「MAU SOCIAL IMPACT AWARD」は、美術大学ならではの「造形教育」を背景にした創造的思考と、他分野の学生や社会人との共創による多様性の融合により、独自のアイデアの創出を目指すビジネスデザインアワードです。今年には本学の学生をはじめ、他大学の学生や社会人、高校生など68名がエントリー。グランプリは、スコット愛真ルイズさん（視覚伝達デザイン学科3年）、岡本健生さん（基礎デザイン学科2年）、スコット瑠玖オオシマさん（社会人）、國井咲良さん（社会人）による『ROFUME. 香りのフルコース』が受賞しました。



令和7年度 武蔵野美術大学 卒業・修了制作展を開催

2026年1月15日 - 18日に本学鷹の台キャンパスにて、1月30日 - 2月1日に市ヶ谷キャンパスにて、令和7年度卒業・修了制作展を開催しました。それぞれのキャンパス内をギャラリーと見立て、2026年3月に卒業・修了予定の学部・大学院生による様々な作品・研究成果が展示されました。



令和7年度武蔵野美術大学 卒業式を挙行（予定）

2026年3月13日に、令和7年度武蔵野美術大学卒業式を挙行予定です。式典参加者は令和7年度学部卒業生・大学院修了生のみとします。会場の座席に限りがあるため、保護者・関係者の皆さまの大学への入構は可能ですが、式典への参列はできません。ご理解賜りますようお願いいたします。

卒業式当日は、ご自宅等から式典の様子をご視聴いただけるよう、インターネットで動画配信をする予定です。詳細は3月上旬ごろ、学部卒業生・大学院修了生に対してLive CampusUにてお知らせいたします。卒業式当日、保護者・関係者の方を対象にインターネットで配信する動画を視聴できる上映会場を設ける予定です。*座席数には限りがございますので、あらかじめご了承ください。

本学関連施設展覧会情報

2026年3月－2027年3月の予定

美術館

大学美術館として美術作品やデザイン資料などの収集と保存、データベースの構築、展覧会の企画、開催、図録の刊行などの活動を行っています。

武蔵野美術大学 鷹の台キャンパス内

<https://mauml.musabi.ac.jp/museum/>

月－金〔祝除く〕10:00－18:00

土・祝・特別開館日 10:00－17:00

*最新の情報は右記webサイトをご確認ください。



2025年度 武蔵野美術大学 卒業・修了制作 優秀作品展	4月2日－5月2日
民具これなーんだ? 民俗学者・宮本常一と民具コレクションのレガシー	6月15日－8月1日
黒坂圭太教授退任展 (仮称)	6月15日－7月18日
tupera tupera のミックスワークス2002－2026	9月14日－10月25日
安西水丸コレクション展 (仮称)	9月14日－10月25日
助教・助手展2026 武蔵野美術大学助教・助手研究発表	11月20日－12月19日
間島秀徳展 Kinesis 水の森／天地無常の彼方へ	11月20日－12月19日

民俗資料室

民俗資料室は民俗学者・宮本常一〔1907－1981〕〔1965－1977本学教授〕の指導により収集された約9万点の生活造形資料をコレクションの中心としています。収蔵資料の活用と公開を目的に企画展を開催し、収蔵庫見学を実施しています。

武蔵野美術大学 鷹の台キャンパス内

<https://mauml.musabi.ac.jp/folkart/>

収蔵庫見学 (授業期間中の火・木曜日 10:00－16:30)

*業務都合により見学日や見学時間が変更になる場合があります。

*最新の情報は右記webサイトをご確認ください。



gallery αM

本学が運営するノンプロフィットギャラリー。ジャンルを問わず質の高い表現と可能性を有するアーティストに作品発表の機会を提供すること、社会に斬新な価値を発信できるキュレーターに展示企画の場を提供することの2点をコンセプトとしています。

東京都新宿区市谷田町1-4

<https://gallery-alpha.com/>

武蔵野美術大学市ヶ谷キャンパス 2F

火－土〔祝除く〕12:30－19:00



αM+ vol.3 上村卓大 2026年3月7日－3月28日

αMプロジェクト2025－2026「立ち止まり振り返る、そして前を向く」

ゲストキュレーター：大槻晃実 (芦屋市立美術館)

vol.5 飯川雄大 2026年4月11日－6月13日

vol.6 中野裕介／パラモデル 2026年6月27日－9月5日
(夏期休廊：8月9日－24日)

vol.7 柳瀬安里 2026年9月19日－11月21日

vol.8 林勇氣 2026年12月5日－2027年2月20日
(冬期休廊：12月20日－1月11日)

*会期や時間等は変更になる可能性があります。最新の情報は上記webサイトをご確認ください。

美術館のリニューアルオープンについて

武蔵野美術大学 美術館・図書館 (美術館棟) は空調改修工事実施のため休館しておりましたが、2025年6月にリニューアルオープンいたしました。

2026年度は7本の展覧会を開催予定です。みなさまのご来館をお待ちしております。



2025年度 武蔵野美術大学

卒業・修了制作 優秀作品展

本学では、学部卒業制作および大学院修了制作において、特に優れた作品や研究成果を発表した学生に対し「優秀賞」が贈られます。優秀作品展は前年度の約100名の受賞者の作品や研究成果を学科やコースを越えて一堂に展示する、1967年の当館開館以来続く展覧会です。

学生たちが在学期間中に取り組んできた制作・研究の集大成はいずれも秀作揃いであり、本学で実践される美術教育のいまが映し出されています。美術とデザインをめぐる、新たな世代の活力に満ちた作品を総覧することで、これからの表現の可能性を感じていただけますと幸いです。



「2024年度 武蔵野美術大学 卒業・修了制作 優秀作品展」会場風景 (撮影：稲口俊太)

美術館・図書館が

「登録博物館」になりました

わが国の博物館法において博物館登録は、これまで設置者が地方公共団体や財団法人等に限定されていましたが、令和4年(2022)4月の法改正を機に、学校法人が設置する博物館も登録対象となりました。本学美術館・図書館は、このたび東京都教育委員会に登録申請をおこない審査の結果、2026年1月16日付をもって、同法が定める「博物館」として登録されました。

